

7月25日、早朝31名が参加してAM7:00扇沢駐車場に集合。アルペンルートのバス始発に乗り、ケーブルカー、ロープウェイを乗り継ぎAM9:00登山口室堂によりやく到着。準備をしてAM9:30出発。上空は曇天模様。雷鳥平に一旦下り、チングルマが群落する新室堂乗越を経由して、尾根伝いに別山乗越へ向う。途中風雨激しくなり、PM12:30ようやく辿り着いた剣御前小屋へ逃げ込む。

放流する黒四ダム



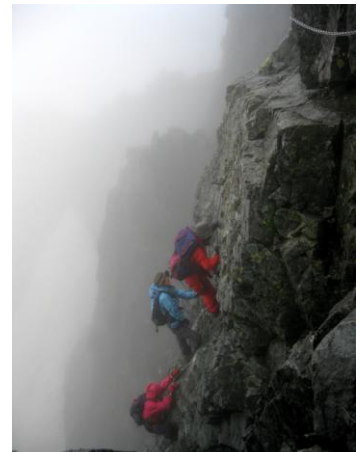
チングルマの群落



雷鳥平を行く

雨を避けて剣御前小屋内での昼食後、風雨について残雪多い剣御前の山腹を巻いて下る。いよいよ雨本降りの中PM3:30剣山荘に到着、泊す。翌26日、AM4:00起床。雨が上がるが湿った濃霧が漂う。朝弁当を摂り、準備をして、AM5:15全員出発する。一服剣までの南斜面に、今は盛りとコバイケイソウが群落している。前剣までの急傾斜の岩場を登り、濃霧の中、剣岳本峰の岩場の登攀に挑む。

剣御前の山腹に残る雪渓を渡る



濡れるカニのタテバイの岩壁の登攀

濡れる岩の僅かなスタンスに足場をつくり、岩溝に手がかりを探し、鎖を握りしめ、体を攀じる。高さ10mの垂直岩壁カニノタエバイも全ての力を出し切るように乗り越え、暫らく岩礫帯を登ると、目指した山頂にAM9:00全員見事登頂する。山頂に立つ祠の前で、互いの健闘を讃え合う。「おめでとう！」



シナノキンバイ



コバイケイソウ

30分ほど山頂に憩い、下山を始める。20分降下した岩場の途中から帰路のルートを下り、垂直の岩壁カニノヨコバイをトラバースし、続く岩稜の急降下を鎖を頼りに降りる。濃霧の中、前剣からの急傾斜の岩場を降下し、AM11:30一服剣に辿り着く。ここからの緩やかな斜面を下っていくとシナノキンバイ、ハクサンイチゲの花々が、何事も無かったように微風に揺れている。

PM12:00 剣山荘着、昼食を摂り、PM1:00 室堂へ向って出発。別山乗越からは、強風と土砂降りに悩まされながら、雷鳥平を通過してPM3:45 室堂に到着。PM4:20 最終バスに乗り、アルペンルートを順調に乗り継いで、PM5:50 扇沢到着。PM7:00 松本で最終解散とした。

「いつまでも興奮冷めやらない登攀の連続」だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則